

佳作

一步前へふみだす勇氣

鹿児島県 鹿児島市立八幡小学校六年 土井 萌々音

私はもともと内気な性格だった。大人の人に話しかけられると何も言えず、かちこちにかたまってしまうくらいはずかしがりやだった。小学一年生の時、同じようち園の子といっしょのクラスにされた。その子は私と反対で、どんな子にも話しかけられて、すぐ友達ができる子だった。だから私はその子にいつもついていって、私をふくめて仲良し三人のグループができた。一年生のときは、ただ仲が良い子といっしょにいるだけで友達ができた。そしてあつというまに一年がたち、新学期をむかえた。内気な私には、重要なクラスがえの時がきた。

始業式の朝、二年四組に自分の名前を見つけた。いつもの二人が同じクラスだったらしいな。そんなことを考えて、ワクワクしながら歩いているとその二人が私を見つけて走ってきた。そして私に向かっ

てうれしそうにこう言った。

「私達ね二組だったよ!!ももねちゃんは!!」

このときの言葉と二人のうれしそうな表情は今でもはっきりと覚えている。二人に四組だったと伝えたら、さっきまですごくうれしそうだった二人も少し気まずそうな表情になった。

次の日、暗い気持ちで四組へむかった。案の上知らない子ばかり。教室はすでに仲良しグループができてにぎやかだった。クラスで一人ぼっちを経験したことのない私はこどくを感じた。四月のうちは、ほぼ毎日一人で過ごしていた。悲しくてつまらなくてこの時初めて私は学校に行きたくないと感じるようになった。

でもあるとき、このままずっと一人で過ごしてもだれも助けてくれないんだ、自分の力で友達を作らないといけないんだという事に気がついた。そして自分で声をかけようと決心した。このとき私は一步前進したと思う。でも、いっしょに遊ぼうと言っても断られることが多かった。みんな私と遊びたくないのかな、そう考えると泣いてしまいうまくない悲しくて心が折れそうになった。けどここであきらめたら成長できないと思い、あきらめずに必死

にがんばった。そして、一人のおとなしそうな子にいっしょに遊ぼうと声をかけた。その子はびっくりにした顔で私を見て、ふっと笑顔になり、いいよ、そう言ってくれた。このとき私は、心の中のもやもやがぱあっと晴れていくような気がした。それから、もうずっとその子といっしょにいるようになった。この前まで全然楽しくなかった学校生活がとても楽しくなった。

今では私はいろんな子に話しかけられるようになり自分と気のある子を見つけ、楽しく学校生活を送れている。また大人の人ともふつうに話せるようになった。私の学校生活は二年生の時がいちばん成長できたと思う。またその時に自分の道は、人に助けでもらうばかりじゃなく、自分で努力して切り開いていくものだと思んだ。だからこれから、たくさん努力して自分の道を切り開いていきたいと思う。